

iPDC Server

Company Info 株式会社アイステクノポート

URL <http://www.istechnoport.co.jp/>

Power Systems ベースで PDF 帳票作成に特化した アプライアンス・サーバー

Focus

- 1 Power Systems に、UT/400-iPDC エンジンとインターフェースを実装
- 2 多様なプラットフォームのアウトプット処理を一元化・集中化
- 3 自動印刷、メール・FAX・ファイル送信など多彩なアウトプットが可能

7種類のインターフェースを実装し ほぼすべての企業データに対応

アイステクノポートが4月にリリースした「iPDC Server」は、さまざまなプラットフォームから出力されるデータストリームをPDF化し、印刷・メール送信・電子保存・サーバー送信などを可能にするアプライアンス・サーバーである。企業には今、業務システムやプラットフォームごとに、プリン

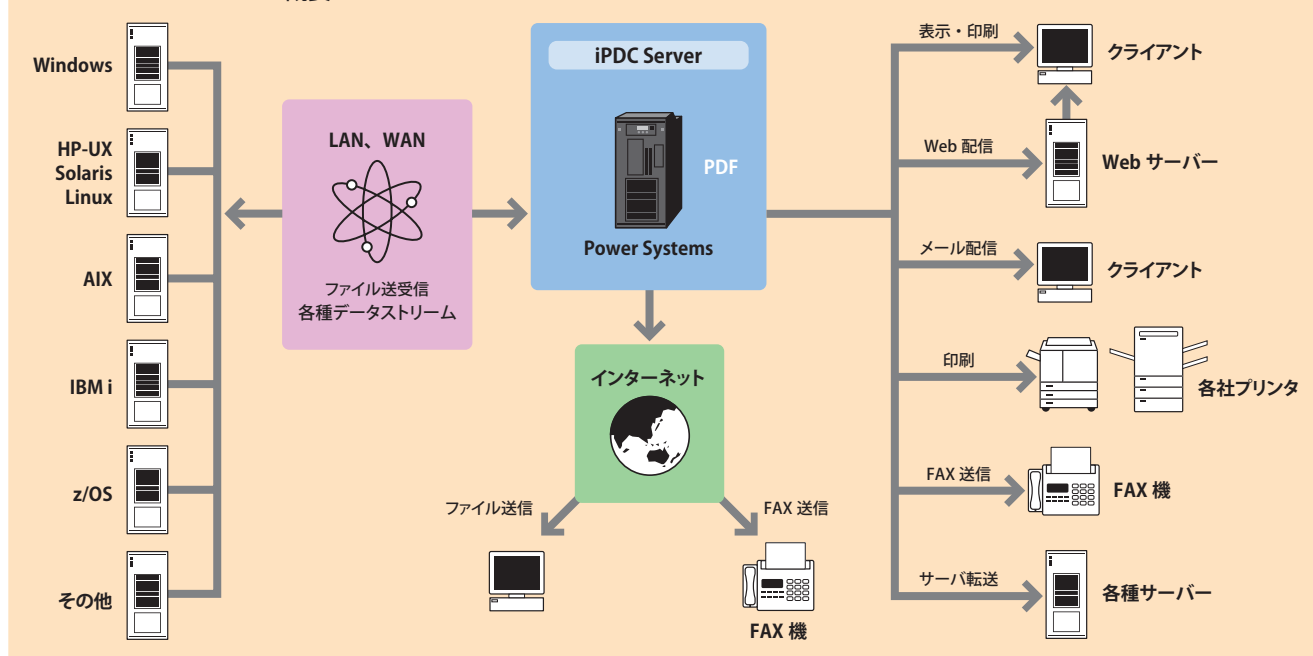
タサーバーやファイルサーバー、メールサーバーなどが設置され、サーバーごとに運用管理が必要になっているが、iPDC Serverはこうした管理を一元化・集中化でき、管理工数の削減やコスト削減を実現することができる。

対応するデータストリームは、スプール、ASCII、EBCDICの3種類。ASCIIとEBCDICはそれぞれ、CSV、LINE、Textの各フォーマットをサポートしている。すなわち、iPDC Serverはこれらに対応する7つのインターフェース

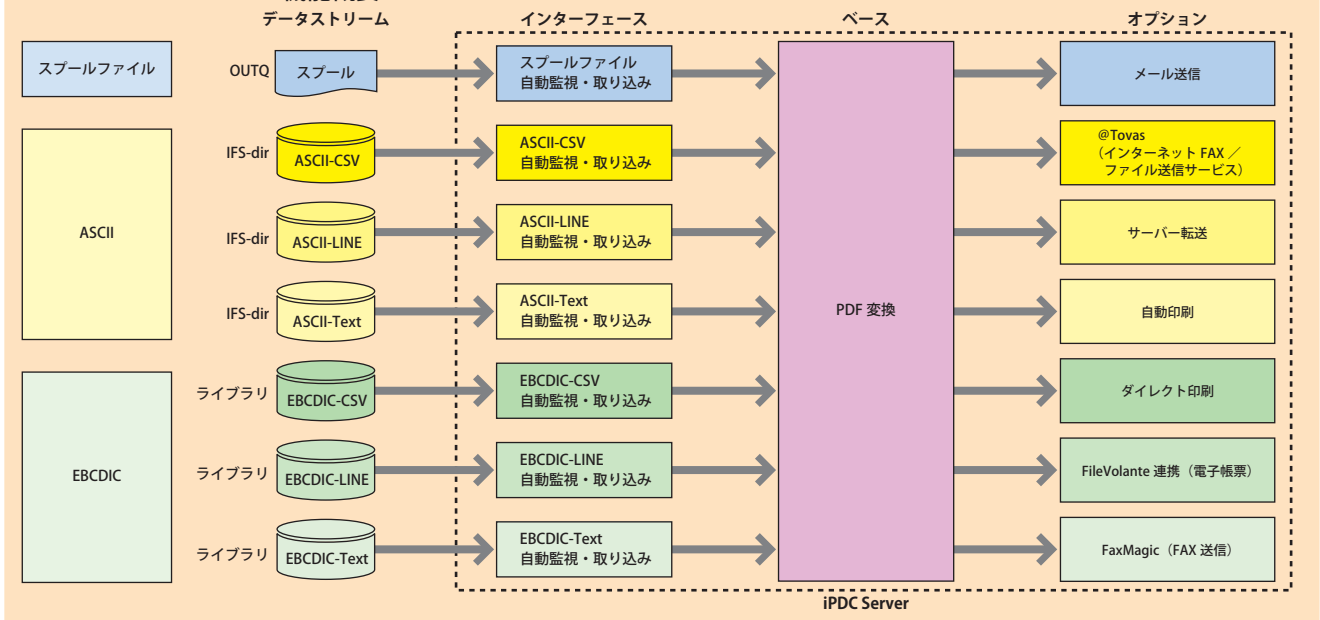
を備え、データ送出元のプログラムを変更することなく、データを取り込むことができる。これで、企業内で流通するほぼすべてのデータ形式に対応可能である。

iPDC Serverは、Power Systems (ハードウェア) 上に、アイステクノポートのスプールファイルPDF化ツール「UT/400-iPDC」のエンジン部分と上記7つのインターフェースを搭載したものである。これに、自動印刷・メール送信・電子帳票などのオプショ

図表1 iPDC Serverの概要



図表2 iPDC Serverの機能概要



ン機能を追加することにより、さまざまなアウトプットが可能になる。

言語コードは、IBMの新しい言語コード「2930」をサポートしている。従来の、OS/400以来使われてきた「2962」に加えてUnicodeをサポートした言語コードだが、これにより、IBM独自言語コード以外のデータの取り込みも簡単に行えるようになった。言語コードの点で、一般的な企業システムに対応する高い汎用性を持っていると言える。また、IBMが推奨する2930の文字コード(CCSID)は「1399」であるが、iPDC Serverでは従来の「5026」と「5035」もサポートしている。これにより、i5/OS V5R4以前のデータも取り込むことが可能である。ASCIIデータについては、「1208」「943」「942」に対応している。

iPDC Serverは一見、Power Systems上にPDF化のエンジンと各種インターフェースを搭載しただけのように見えるが、IBM i 6.1 (OS) と2930、および各種ソフトウェアが最適に稼働するようにチューニングされて提供される。「アプライアンス・サーバー」を呼称するゆえんという。ただし、各ソフトウェアの実装・チューニングは、Power Systemsがユーザーサイトへ納入

されて以降、設置場所で行われる。

Power Systemsのメリットをさまざまに利用できる

iPDC Serverは、ハードウェアがPower Systemsであるので、そのメリットをさまざまに享受することができる。すなわち、システムの安定性・高可用性、高パフォーマンス、拡張性、セキュリティなどだが、例えば、高パフォーマンスでは、1台のiPDC Serverで大規模なマルチタスク処理が可能で、大量の帳票印刷にも対応できる。また、業務内容が変わっても大量の印刷が必要になっても、Power Systemsのスケーラビリティにより対応が可能だ。

また、セキュリティ面でもPower Systemsの高度なセキュリティ機能を活用できる。セキュリティ面ではこれに加えて、作成・変換されるPDFファイルがAdobe Acrobatに準拠しているため、Acrobatの128ビット暗号化セキュリティ機能も利用できる。

iPDC Serverのオーバーレイ機能はUT/400-iPDCと同様で、カラー・画像・バーコードなど多彩な帳票作成が可能である。また、iPDC Serverから

のアウトプットは、オプションでさまざまに選択でき、多目的に利用できる。

用意されているオプションは、自動印刷・メール送信・FAX送信・サーバー転送に加えて、富士ゼロックス機へのダイレクト印刷、コクヨS&TのインターネットFAX / ファイル送信サービス「@Tovas」との連携、JFEシステムズの電子帳票「FileVolante」との連携、オークシステムのFAX自動送信ツール「FaxMagic」との連携などである。

価格は、最小構成で約1000万円から。アイエステクノポートでは、このiPDC Serverについては原則として直販を行わず、代理店経由で販売を行う予定。すでに日本情報通信が1次代理店に決まっており、当面1次代理店は5社以内に限定する計画という。

iPDC Serverは、データ送出元のシステムを問わない点と、アプライアンス・サーバーでありPower Systemsであることを特に意識する必要がないので、IBM iおよびIBMユーザー以外にも販売対象になる。このことを踏まえると、iPDC Serverは、Power Systemsの適用範囲と市場を大きく拡大するシステムと見ることができる。注目のサーバーと言えるだろう。

